聖書日課『からし種』2025.5.25－6.1

5月25日 （日） 使徒 13章	**「あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、信じる者は皆、この方によって義とされるのです」（38－39節）。**使徒言行録に記されたパウロの最初の説教のクライマックス。使徒パウロは生涯を通じて「人はイエスを信じる信仰によって義とされる」と語り続けた。「ローマの信徒への手紙」に繰り返し綴られたこの真理は、今なお多くの人を解放に導く。
26日 （月） 使徒 14章	**「しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません」（17節）。**「伝道とは、神御自身がなさる宣教のわざに私たちがあずかって行くこと」という神学があるそうだ。「神を知らない」のは私たちも同じ。神がその人にどのように御自身を証ししておられるのかを尋ね求め、分かち合いの中で自分も神を知らされて行くような「伝道」にあずかりたい。
27日 （火） 使徒 15章	**「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました」（28節）。**「異邦人」に律法と割礼は必要か？使徒たちの激しい議論の中を、エルサレム教会の重鎮ヤコブが立って執り成した。主の愛の働きに必要な事柄を聖霊に教わって一致に至った使徒たちは、自分自身が対立の重荷から解放されたことだろう。
28日 （水） 使徒 16章	**「パウロは、このテモテを一緒に連れて行きたかったので、その地方に住むユダヤ人の手前、彼に割礼を授けた」（3節）。**宣教の旅から脱落したマルコを切り捨てたために、バルナバとの友情まで失う手痛い失敗をしたパウロに、テモテとの出会いは大きな慰めとなったに違いない。テモテの立場に配慮し旧約の信仰を尊重するまでに心を柔らかくされた。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会
メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2025.5.25－6.1

29日 （木） 使徒 17章	**「しかし、彼について行って信仰に入った者も、何人かいた。その中にはアレオパゴスの議員ディオニシオ、またダマリスという婦人やその他の人々もいた」（34節）。**パウロが宣べ伝えた「死者の復活」をアテネの知者たちの多くはあざ笑ったが、中には自分の名をはっきりと表すほど信じた者たちが（「も」ではない）いた。この事実が小さいこととは思えない。
30日 （金） 使徒 18章	**「アポロはそこへ着くと、既に恵みによって信じていた人々を大いに助けた」（27節）。**聖書の知識に優れた雄弁家だが、まだ聖霊に心を開かれていないらしいアポロ。それでも、既に恵み(知識ではなく）によって信じていた人々を「助ける」働きを与えられた。新しい人々を教会に迎え入れることはもちろん、信徒同士の助け合いも大切な主の働きであると知る。
31日 （土） 使徒 19章	**「パウロは、マケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行こうと決心し、『わたしはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない』と言った」（21節）。**目的地は旧約の律法と神殿礼拝に固く閉じこもるエルサレム、皇帝が「神」として君臨するローマ。交通も通信もままならぬ時代に、この力溢れる生き方そのものがすでに「福音宣教」になっているのではないか。
6月1日 （日） 使徒 20章	**「神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、…すべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです」（32節）。**「恵みを受け継ぐ」とは「バトンを受ける」こと。私たちより先に神の言葉の働きに仕えた大勢の証人の恵みの足跡を見つめつつ、私たちをキリストの体に造り上げる恵みの言葉を大切に受けていこう。

大井バプテスト教会